

令和3年度 第1回市政モニターアンケート調査結果

1 アンケート内容

(1) アンケートテーマ

再犯防止の推進について(所管課:市民活動推進課)

(2) アンケート目的

姫路市では、「再犯の防止等の推進に関する法律」(平成28年施行)の趣旨に基づき、犯罪や非行のない安全・安心なまちづくりを実現するため、「姫路市再犯防止推進計画」の策定を進めている。

については、再犯防止対策等に関する市民の意識を把握し、計画策定及び今後の施策の参考にしようとするもの。

(3) アンケート項目

10項目

- ・回答者の属性(年齢、性別)について
- ・再犯防止に協力する民間協力者について
- ・再犯防止に関する広報・啓発について
- ・再犯防止の施策について など

なお、平成30年9月に実施された「再犯防止対策に関する世論調査」とできるだけ項目を同じにすることで、結果を比較できるようにしている。

(4) アンケート対象

令和3年度の市政モニター(150名)

(5) アンケート方法

姫路市公式アプリ「ひめじプラス」のアンケート機能を活用

(6) アンケート期間

令和3年6月18日(金)から令和3年7月18日(日)まで

2 回答状況

(1) 有効回答数

114

(2) 回答率

76.0%

(3) 回答集計

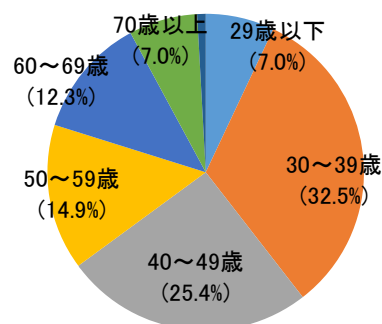
次ページ以降のとおり

質問1

アンケート回答者の属性

年齢

29歳以下	8	(7.0%)
30～39歳	37	(32.5%)
40～49歳	29	(25.4%)
50～59歳	17	(14.9%)
60～69歳	14	(12.3%)
70歳以上	8	(7.0%)
不明	1	(0.9%)

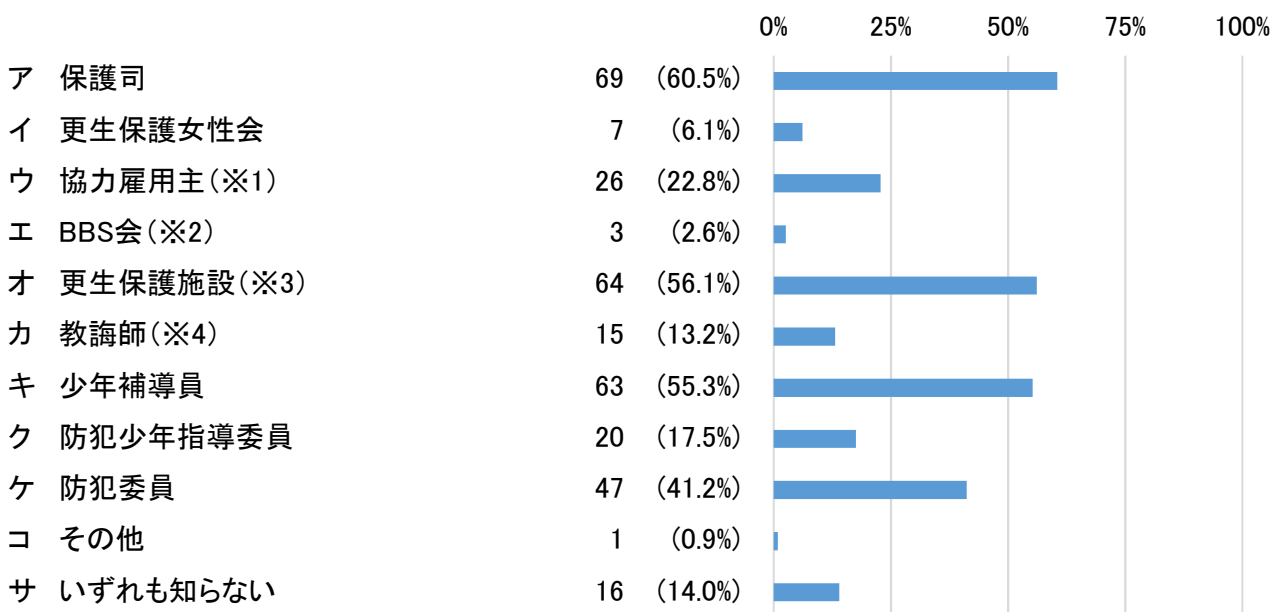


性別

男性	27	(23.7%)
女性	87	(76.3%)

質問2

再犯防止に協力する民間協力者として、次の方々がいることをご存知ですか。(複数回答可)



※1 犯罪前歴を承知のうえで雇用に協力する事業主

※2 非行などの課題を抱える子供たちに、兄や姉のような立場で接しながら、支援する活動を行う青年のボランティア団体

※3 出所後、直ちに自立更生することが困難な人たちに対して、一定期間、宿泊場所や食事を提供する民間の施設

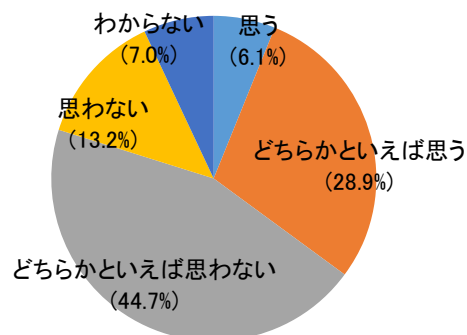
※4 矯正施設の被収容者に、本人の希望に応じて宗教教諭を行う民間の篤志家である宗教家

結果	<p>いずれかを知っている方が86%となっており、具体的には、保護司(60.5%)、更生保護施設(56.1%)、少年補導員(55.3%)は半数以上の方が知っていた。</p> <p>一方、BBS会(2.6%)、更生保護女性会(6.1%)を知っている方の割合は低かった。</p>
----	---

質問3

犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。

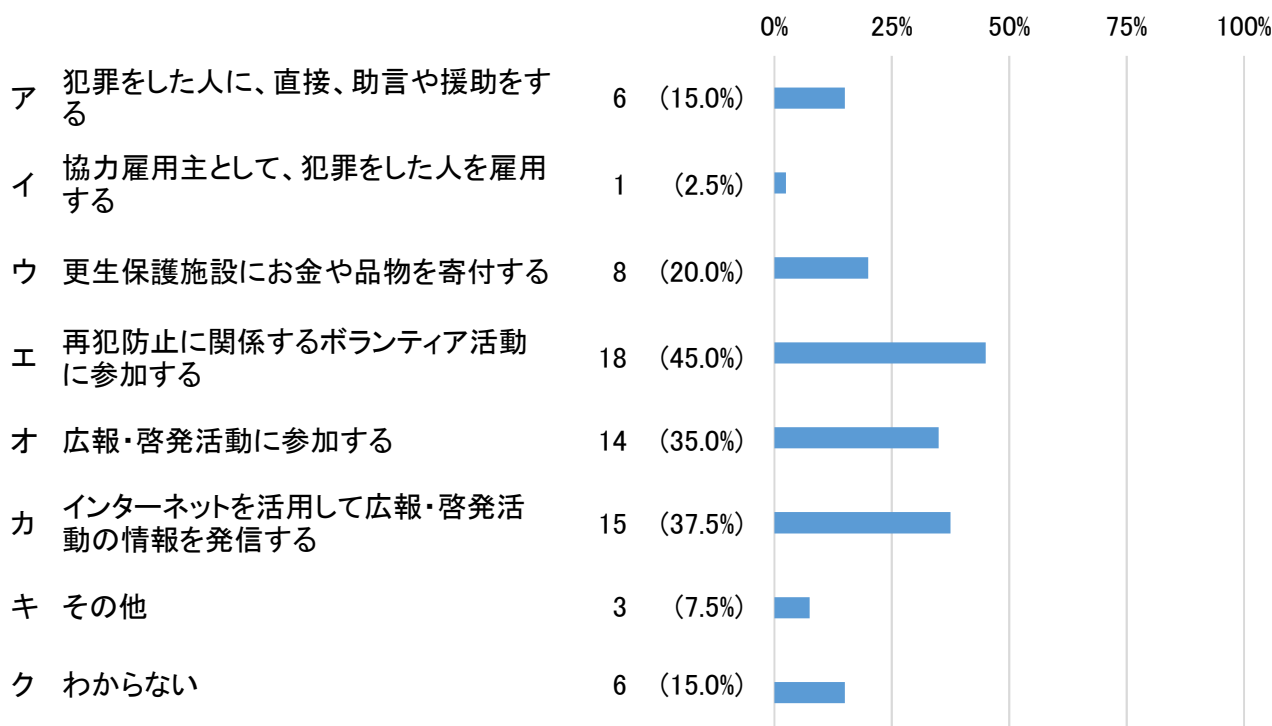
ア	思う	7	(6.1%)
イ	どちらかといえば思う	33	(28.9%)
ウ	どちらかといえば思わない	51	(44.7%)
エ	思わない	15	(13.2%)
オ	わからない	8	(7.0%)



結果	<p>「思う」方が<u>35.0%</u>(「思う」6.1%+「どちらかといえば思う」28.9%)、「思わない」方が<u>57.9%</u>(「どちらかといえば思わない」44.7%+「思わない」13.2%)であり、協力したいとは思わない方のほうが多かった。</p> <p>なお、国の世論調査では「思う」方の割合が53.5%であり、国と姫路市とは逆の傾向になった。</p>
----	---

質問4 (質問3で「ア 思う」、「イ どちらかといえば思う」と回答された方のみ)

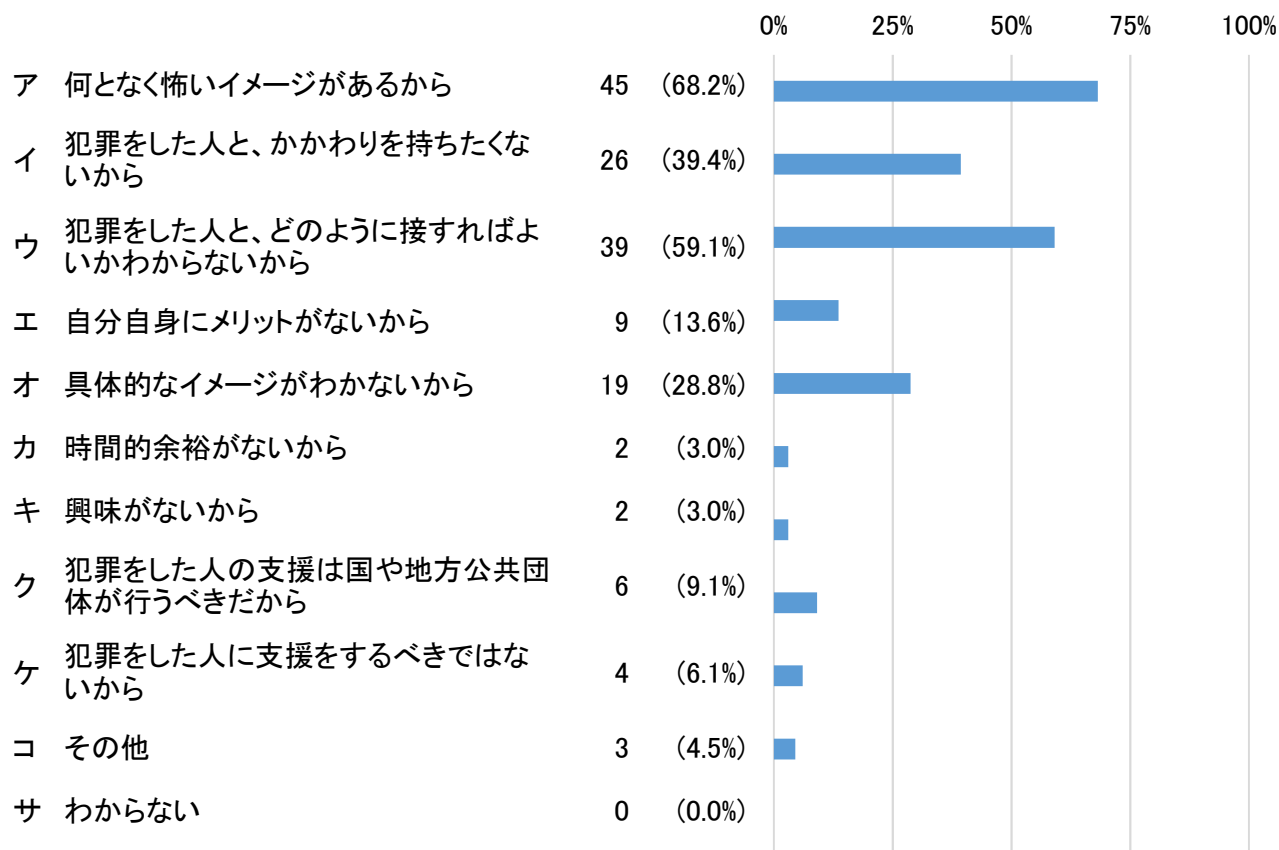
どのような協力をしたいと思いますか。(複数回答可)



結果	<p>再犯防止に関係するボランティア活動への参加(45.0%)、インターネットを活用した広報・啓発活動の情報発信(37.5%)、広報・啓発活動への参加(35.0%)など間接的な協力が多く、一方、犯罪をした人を雇用したり、直接、助言や援助を行うといった、犯罪をした人と顔を合わせての直接的な協力の割合は少なかった。</p>
----	--

質問5 (質問3で「ウ どちらかといえば思わない」、「エ 思わない」と回答された方のみ)

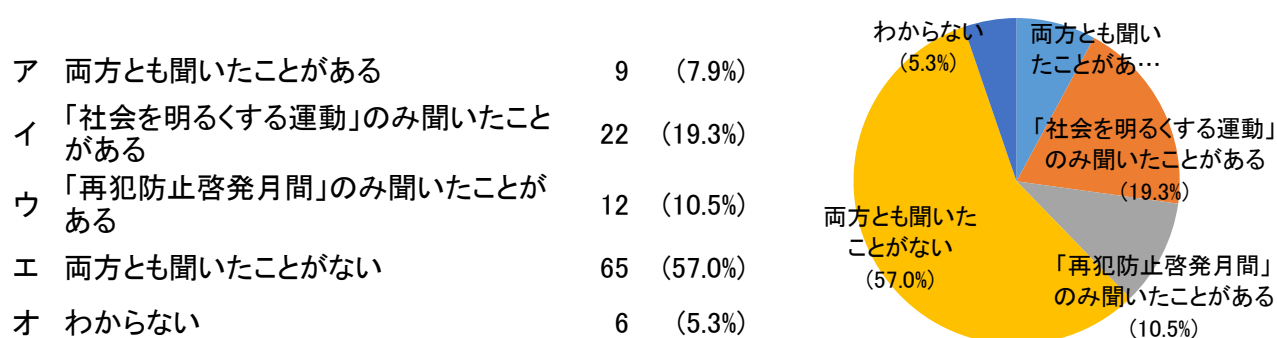
協力をしたいと思わない理由を教えてください。(複数回答可)



結果 「何となく怖いイメージがあるから」(68.2%)、「どのように接すればよいかわからないから」(59.1%)、「犯罪をした人と、かかわりを持ちたくないから」(39.4%)の順で高かった。一方、メリットがない、時間的余裕がない、興味がない、といった理由を挙げた方は少なかった。

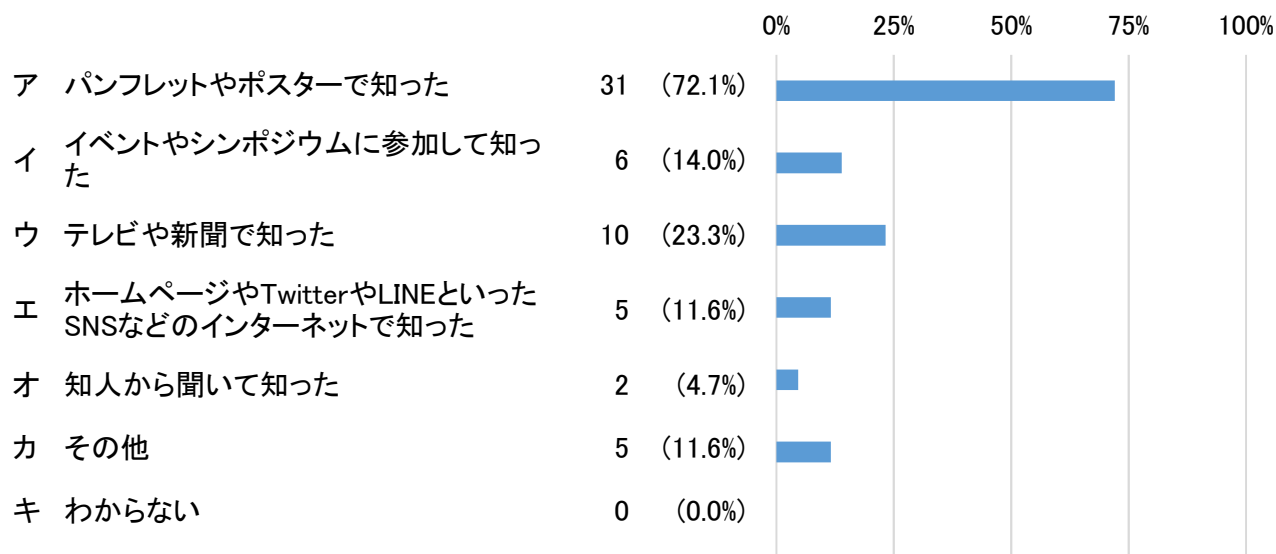
質問6

再犯防止に関する広報・啓発活動の取組である「社会を明るくする運動」又は「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。



結果 「聞いたことがある」方が37.7%（「両方とも」7.9%+「社会を明るくする運動のみ」19.3%+「再犯防止啓発月間のみ」10.5%）、「両方とも聞いたことがない」方が57.0%であり、認知度はあまり高くないことがわかった。なお、国の世論調査でも姫路市とほぼ同じ結果となっている。

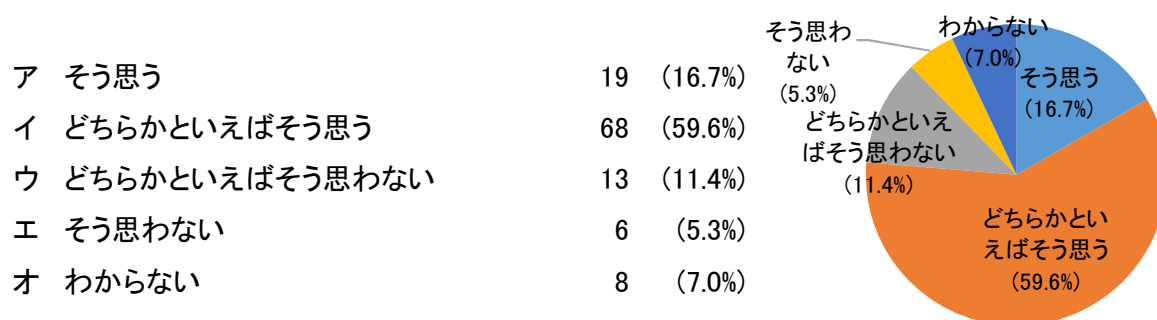
質問7 (質問6でア～ウ(両方又はいずれかを聞いたことがある)と回答された方のみ)
 どのようにして知りましたか。(複数回答可)



結果 「パンフレットやポスターで知った」方が72.1%で、他の媒体と比べて圧倒的に高かった。一方、国の世論調査では「テレビや新聞で知った」方が67.3%と最も高く、「パンフレットやポスターで知った」方(38.3%)を大きく上回っている。

質問8

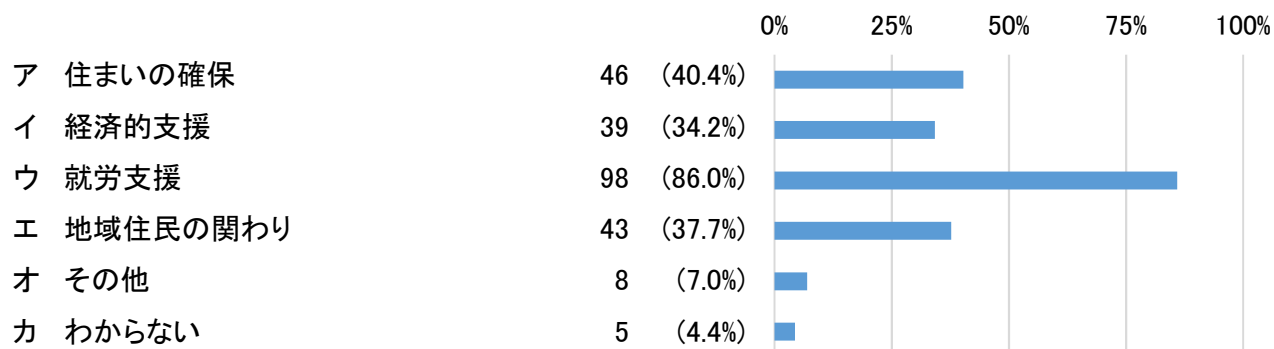
再犯防止のためには、犯罪をした人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることができる「誰一人取り残さない」社会の実現が大切である、という意見について、どう思いますか。



結果 「そう思う」方が76.3%（「そう思う」16.7%+「どちらかといえばそう思う」59.6%）、「そう思わない」方が16.7%（「どちらかといえばそう思わない」11.4%+「そう思わない」5.3%）であり、3/4以上の方が当意見に対して、同感であった。なお、国の世論調査でも姫路市とほぼ同じ結果となっている。

質問9

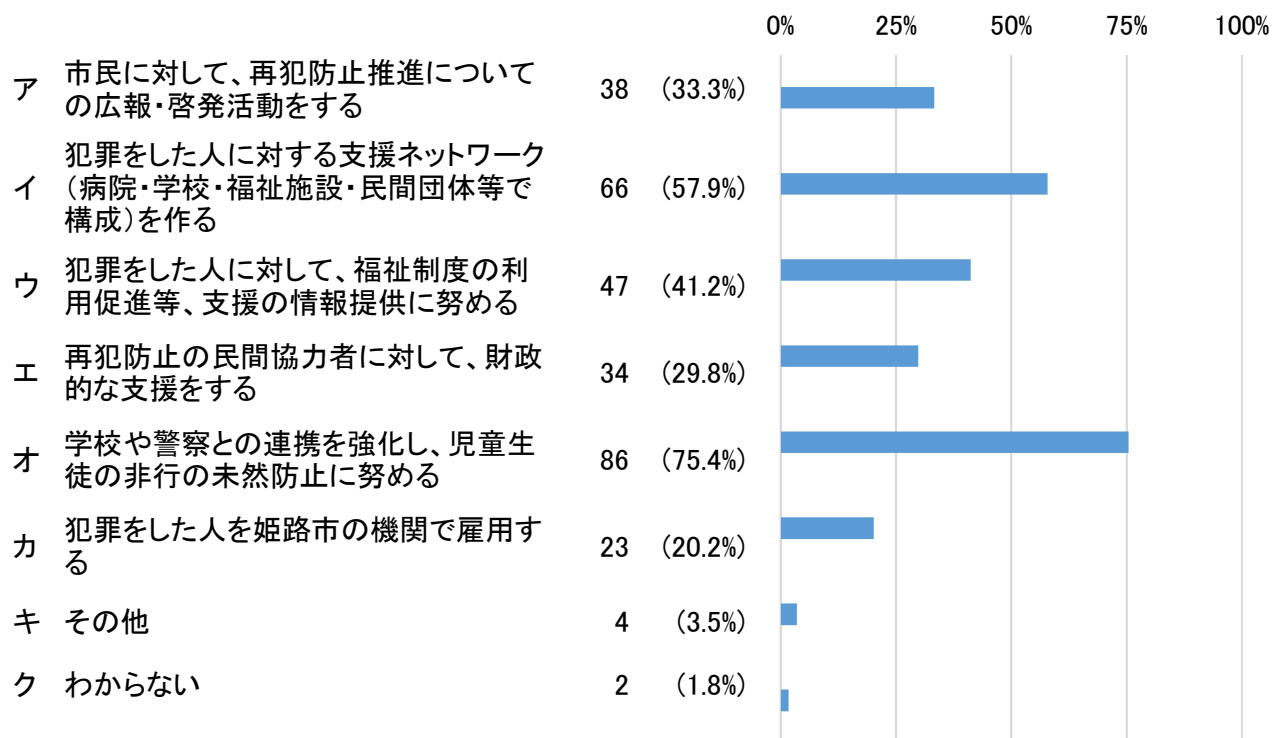
犯罪をした人が地域に戻るために、どのような支援が大切だと思いますか。(複数回答可)



結果 「就労支援」が大切だと思う方が86.0%と特に高かった。
 なお、姫路市地域福祉計画の見直しのための基礎資料として令和2年2月に実施された調査にて同じ質問をしており、その調査でも、「就労支援」が必要だと回答した方が最も多かった。

質問10

再犯防止のために、姫路市は何をするべきだと思いますか。(複数回答可)



結果 「学校や警察との連携を強化し、児童生徒の非行の未然防止に努める」が75.4%、「犯罪をした人に対する支援ネットワークを作る」が57.9%と、非行の未然防止や支援ネットワーク作り等、関係機関・団体で連携した支援が必要と回答した方が多かった。